

西神ニュータウン研究会 会報

第204号 2020年8月

■第204回例会記録

- ・日時 2020年7月25日(土) 14:00~16:00
- ・場所 ユニティ・セミナー室3
- ・参加者 19名
- ・テーマ 西神ニュータウンでの農産物販売と、そのコミュニティの可能性
- ・発表者 山崎 高志 氏 (おしベジタブル代表)



■「おしベジタブル」がめざすこと →ローカルにやる！

・私は、押部谷出身で、祖父の農業を引き継いだ。39歳だが、若手の若手です。農業者の平均年齢は70才以上で、やめていく農家も多い。農業をやる中で、どう生きていくのか展望が見つけれなかったが、

「ローカル」でやるということで、仲間と「おしベジタブル」を作った。

・ニュータウンが目の前にあり、旬の野菜を近くで生産しているのに、知らないのはもったいない。人、情報の交流がない。車で5分なのに壁がある。この壁を超えるのが目標です。

■私たちの地域のこと →最近、若い新規就農者増える。

- <押部谷> ・歴史ある寺などがあり、伝統行事が行われる。
- ・明石川の肥沃な土地、谷合いの特徴である昼夜の寒暖差により美味しい野菜が採れる。
- ・全国で有数の果樹団地や農業公園がある。

- <西神ニュータウン> ・住、商、工が存在する広大なまち
- ・農村地域に囲まれ身近に野菜の直売所があり利用できる。

- <近年の動き> ・20年ぐらい前から、若い人が農業に入ってくる。
- ・初め6人だったが現在20人。元デザイナーなど前職様々。

■コミュニティの視点 →野菜販売がつながりを生む。

- <行政は> ・人口を増やしたい。 ・魅力あるまちづくりを。
- <地域は> ・子育て世代が暮らしやすい環境を。
- ・人口減によりコミュニティの役割が増大だが、横のつながりは薄い。 ・高齢者の買い物難民の増加

- <野菜販売から> ・まさかのコミュニティ活性化 小さなコミュニティ販売から野菜を媒介してかあちゃんネットがどんどん繋がる。
- ・若い人の増加が新しいつながりを生む。若い人が農産物などを通じて、自分の生活を面白くするため、自発的に活動。

- <分かったこと> ・野菜の美味しいという力
- ・生活自体を楽しみたい
- ・若い世代の力、つながりがスゴイ

おしベジの理想

【野菜販売】 ローカルの可能性を最大限に高める

- 1 地元だからできること
里づくりから始まった！？
僕たちはズバリ農家 野菜を販売したい
ニュータウンが目の前に！
- 2 地元でしかできないこと
旬の野菜がこんな近くで生産されている
知らないなんてモッタイナイ！！
車で5分の壁を越える！

押部谷という地域



コミュニティの視点

- 1 様々な野菜販売で分かったこと
美味しいという力
生活自体を楽しみたい 若い世代がスゴイ
- 2 まさかのコミュニティ活性化
地域若手農家の経営難のなか小さなコミュニティ販売や共同購入の要望に応じてきた結果 もっとも確かな販売先にまた野菜を媒介してコミュニティが活性化
- 3 自発的に動く人の増加
自分の人生や生活を面白くするために新しい人が新しいつながりを連れてくる自発的に動きやすい場とは

■実際の活動

<農業体験> 体験により、野菜の美味しさを知り、ファンになってもらえる。おしベジを助けたらという人も出てくる。

<集荷拠点> 自宅に集荷場を設置。ここでお客さんと生産者が、交流。農産物の勉強など、情報がいきかう。

<マルシェ> 竹の台朝市、西神南コンビニ、農業公園など、できるだけ出店する。地元の人にぜひ買ってほしい。

- ・**コミュニティ販売** コミュニティの中での共同販売、集荷場、農家での対面販売などで、野菜の美味しさを知り、農業体験を経験、更に、かあちゃんネットで**どんどん輪が広がる**。
- ・**お客さんはいろんな能力を持っていて、更に、活動が広がる**。編み物ができるお母さんが、わらで鍋敷きワークショップを開催するとか、押部谷のわらで、竹の台に、あずまやを作るとか農業資源を大活用。

■広がる活動、つながる活動

- ・**若い世代はフットワークが軽い**。まず、食べてみる。次に、野菜を取りに来る。それで、感動を受けて、自身で活動を実践。
 - ・農業体験を自身で企画し、人をつなぐ。
 - ・野菜ソムリエの方が、捨てるしかないと思っていた野菜から**トマトソース**をつくった。お客さんから教えてもらう。
 - ・若い女性が、フードロスの視点から、**八百屋**を起業。地下鉄名谷駅構内で販売している。
 - ・料理屋さんが、押部谷産で、**野菜テリーヌ**をつくる。
 - ・**嚙下食品**の開発。 などなど

■これからのこと →自分たちの生活圏を面白く。

- ①人・自然・文化、**多くの資源が埋もれている。それをつなぐ**。
- ②10年間の活動で、お客さんに助けてもらう。お客さんは、**クリエイトする仲間**だ。
- ③都市・農村の区分を超えた地域・生活圏にできたらいい。いろいろな人、資源がある。**もっと、つながって、小さなエリアが活性化すればおもしろい**。

<意見交換>

- ・ニュータウンへの提案は？ ←地産地消のお店があれば。お年寄りに美味しいヘルシーな味を提供したい。
- ・持続するためには？ ←少量で、美味しいものを作るのが、押部谷の特性。循環させるところにこだわる。
- ・「楽農応援隊」というグループです。交流をお願いします。←ウエルカムです。 (文責 橋本)

